

比叡山三面大黒天縁起

千二百年の昔、当山開祖 伝教大師 最澄上人が根本中堂ご創建の折、一人の仙人が現れましたので、大師は「あなたはどなたですか、そして何しに来られましたか」と尋ねられると、その仙人は「普利衆生、皆令離苦、得安穩世間之樂及涅槃樂」と法華経のご文を唱えて答えられました。これを聞いた大師は「それなら修行する多くの僧侶達の食生活と健康管理のため、比叡山の経済を守ってください」と申しますと、仙人は「毎日三千人の人々の食料を準備しましょう。それから私を拝むものには福德と寿命を与えます」と約束されましたので、大師は「この人こそ三面大黒天に違いない」と思い、早速身を浄め、一刀三拝して尊像を彫み、安置されたのがこの三面大黒天であります。

その後、豊臣秀吉がこの三面大黒天に出世を願い遂に豊太閣となったことから三面出世大黒天と尊称され、福德延寿をお授けになる大黒天として、自他安樂の道を願う人々の信仰を受け続けております。合掌

比叡山延暦寺

大黒堂

三面大黒天について

正しくは三面六臂大黒天さんめんろっぴだいくくてんと言いい、日本で最初の三面をもった尊天そんでんです。

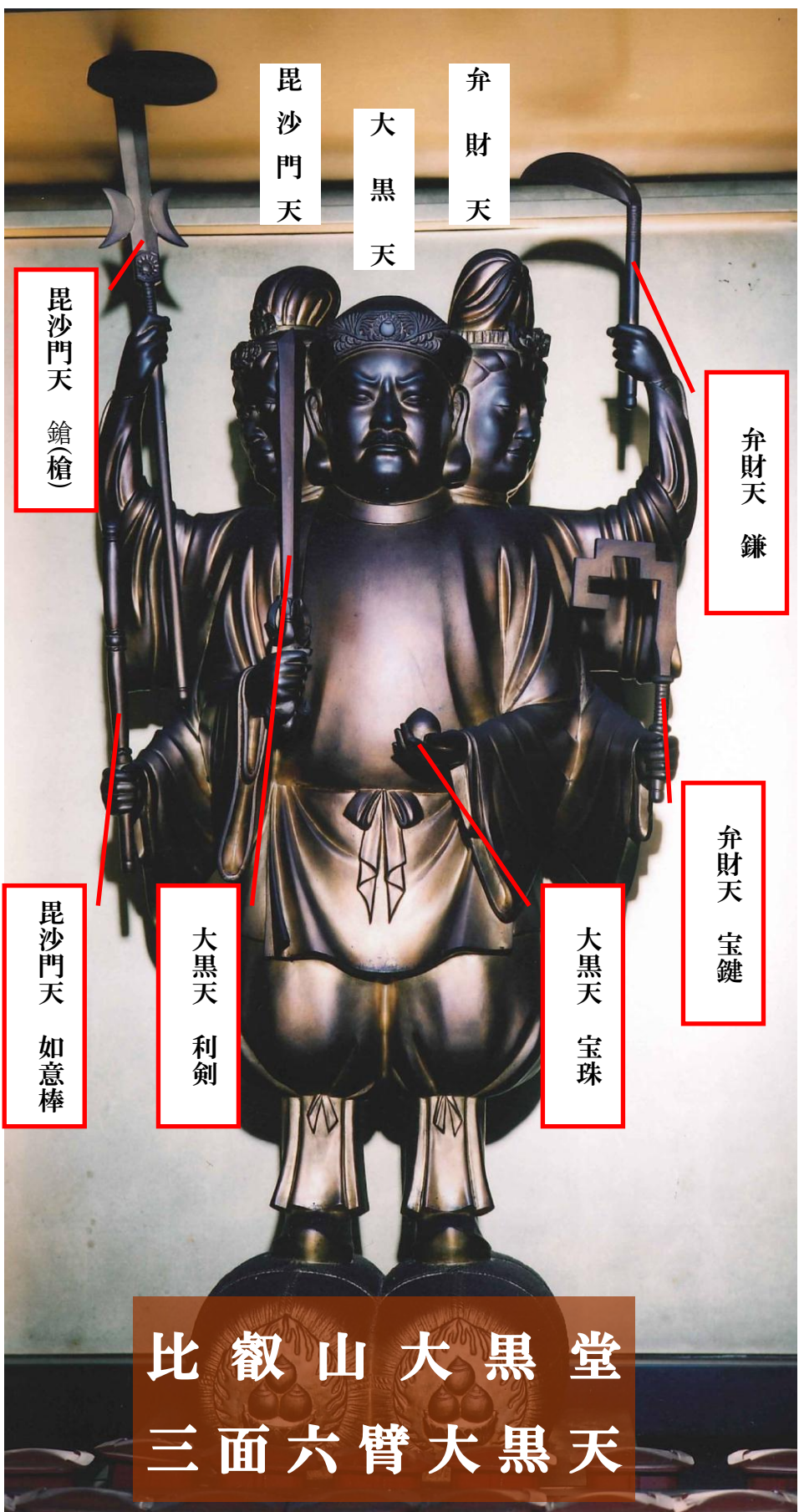
米俵こめたわらの上に立ち、食生活を守る「大黒天だいくくてん」を中心に、右には勇気と力を与える「毘沙門天びしゃもんてん」、左には美と才能を与える「弁財天べんざいてん」、六本のお手には衆生の福德を叶え苦難を除く様々な道具を持つております。

まず、正面の大黒天の左手には願いを叶える如意宝珠にょいほうしゆを持ち、右手には煩惱ぼんのうを断ち切る智慧の利剣ちえりけんを持つ。

次に右面の弁財天の左手には福を集める鎌かまを持ち、右手には世福ほうけんを収納し、人々の願いに応じて福を与える宝鍵ほうけんを持つ。

次に左面の毘沙門天の左手には七財ほどこを自在に施す如意棒にょいぼうを持ち、右手には魔まを降す鎗くだ(槍やり)を持つ。

すなわち、福德開運ふくとくかいうんの善神ぜんしんであり、商売繁盛しょうばいはんじょうの守り神まっとして現在では宗派の別なく祀まつられている。



比叡山大黒堂
三面六臂大黒天